

1 激甚化する風水害や切迫する大規模地震等への対策

(1) 人命・財産の被害を防止・最小化するための対策

(2) 交通ネットワーク・ライフラインを維持し、国民経済・生活を支えるための対策

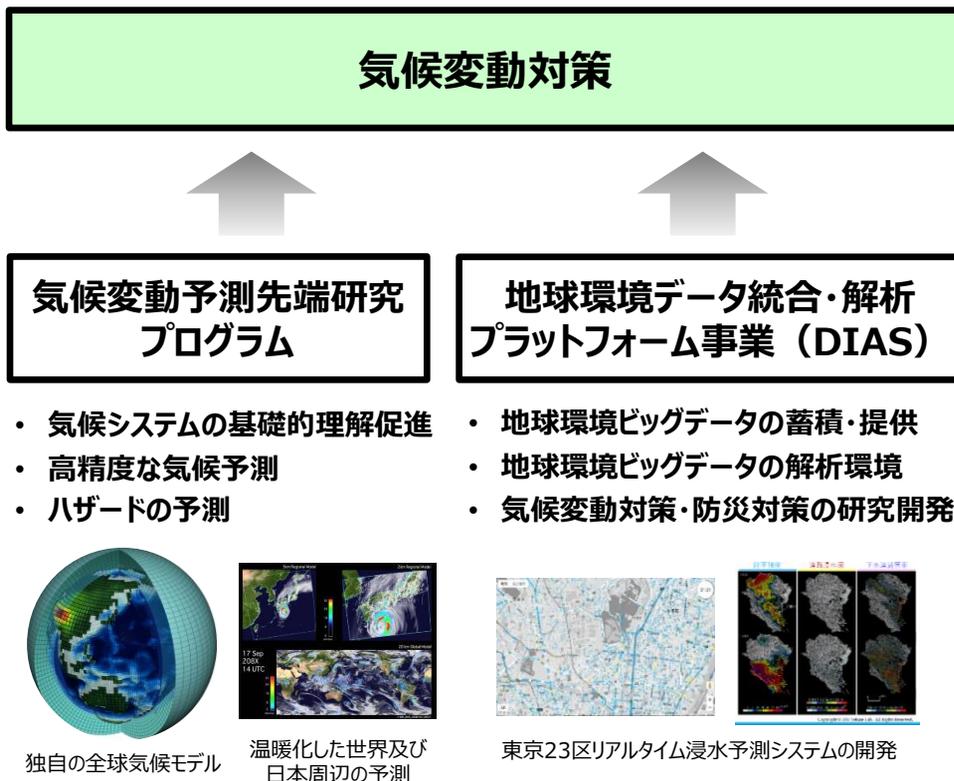
2 予防保全型インフラメンテナンスへの転換に向けた老朽化対策

3 国土強靱化に関する施策のデジタル化

3 国土強靱化に関する施策を効率的に進めるためのデジタル化等の推進

高精度予測情報の創出等により、国、地方自治体、企業等の気候変動対策へ貢献する

JAMSTEC (DIAS)、東京大学ほか4事業者：関（気候変動予測先端研究プログラム）



対策名：114 高精度予測情報等を通じた気候変動対策



主たる施策グループ： 1-4) 突発的又は広域的な洪水・高潮に伴う長期的な市街地等の浸水による多数の死傷者の発生（ため池の損壊に人材・研究等によるものや、防災インフラの損壊・機能不全等による洪水・高潮等に対する脆弱な防災能力の長期化に伴うものを含む）

事業名：気候変動適応戦略イニシアチブ

ポイント ● 高精度な気候変動予測データの創出や地球環境ビッグデータを利活用した研究開発を推進することにより、気候変動対策に貢献

地域の概要・課題

現在、全国で異常気象、災害等が多発しており、これらは気候変動によって今後より頻発化、激甚化することが懸念されています。国、地方自治体、企業等は、中長期的な対策・戦略の策定が必要となっていますが、こうした取組において必要となる将来予測等の科学的根拠の重要性・ニーズは日々高まっています。

事業の概要

全ての気候変動対策の基盤となる気候モデルの開発等を通じ、気候変動メカニズムの解明や、防災対策等の気候変動適応に必要な気候予測データの創出を実施しています。

また、地球環境ビッグデータを蓄積・統合解析するDIAS（データ統合・解析システム）を利活用し、浸水・洪水予測等の気候変動、防災等の地球規模課題の解決に貢献する研究開発を推進しています。

見込まれる効果

高精度な気候変動予測データの創出や地球環境ビッグデータを利活用した研究開発を推進することにより、国、地方自治体、企業等における気候変動対策に関する意思決定に貢献することが期待されます。国土交通省の「気候変動を踏まえた治水計画のあり方」提言の改訂において、異常気象の将来変化の評価が可能な気候変動予測データが活用されました。

<地域区分毎の降雨量変化倍率>

地域区分	2℃上昇		4℃上昇	
	短時間	長期間	短時間	長期間
北海道北部、北海道南部	1.15	1.4	1.4	1.5
九州北西部	1.1	1.4	1.4	1.5
その他(沖縄含む)地域	1.1	1.2	1.2	1.3

※ 4℃上昇の降雨量変化倍率のうち、短時間とは、降雨継続時間が3時間以上12時間未満のこの短時間帯の降雨に列しては適用できない。
 ※ 雨量帯別100km²以上について適用する。ただし、100km²未満の場合についても降雨量変化倍率が今回設定した値より大きくなる可能性があることに留意しつつ適用可能とする。
 ※ 年総雨量1200以上の領域(より高雨量)の計画に適用する。



国土交通省「気候変動を踏まえた治水計画のあり方」提言（令和3年4月改訂）